

研究

低出生体重児とその母親へのタッチケア導入に関する 探索的アプローチ

飯塚 有紀

【論文要旨】

本研究では、低出生体重児にタッチケアを導入し、3か月後のタッチケアに対する積極性とそれぞれの母親の特性との関係を検討した。その結果、不安の強い母親が、積極的にタッチケアを行うことが明らかとなった。

Key words : 低出生体重児, タッチケア, 母親の特性

I. はじめに

タッチケアは、アメリカのマiami医科大学の Tiffany M. Field が開発した低出生体重児向けのマッサージ法である。

本研究では、低出生体重児に対して「タッチケア」を導入し、母親のどのような特性が「タッチケア」の実施に影響を及ぼしているのかについて検討した。

タッチケアの低出生体重児に対する効用は、ある程度一致した意見がこれまでの研究結果から得られている。まず、①ケアを受けた乳児は、コントロール群に比べて体重増加が著しいこと、②眠りに落ちるまでの時間がケア開始後短縮されること、③ケアを受けた乳児は、そうでない乳児に比べ、発達検査の結果が良好であることなどが挙げられている¹⁻⁵⁾。このように、低出生体重児に対する生理学的な効果に関する論文は多く見られるが、タッチケアを施行する者が、子どもにタッチケアを行うことによって得られる影響についての研究や施行者の特性がタッチケアの実施に及ぼす影響についての研究

は少ない。その中で、前者のタッチケア施行者の心理的影響を調べた研究には次のようなものが挙げられる。Lindrea ら (2000)⁶⁾によれば、抑うつ状態の母親にタッチケアを2週間、実施した結果、母親と乳児の交流がスムーズになった。吉永 (2001)⁷⁾は、入院中にタッチケアを行うことは、児のために母親ができることがあるという満足感、母性の誘発などの効果があると述べている。一方、タッチケアの施行者の特性が、タッチケアの施行にどのように影響しているのかということについては、ほとんど研究がなされていない。どのような特性の母親がどのようなタッチケアを行っているのかを調べることは、タッチケアの効果を検討する際に、重要な要因であると考えられる。

II. 目 的

タッチケア研究でこれまで十分に研究されていないことは、大きく分けて2つあると考える。1) 施行者の特性がタッチケアの施行に及ぼす影響について、2) タッチケア施行者へのタッチケアの影響である。そこで、本研究では特に

Tracing Approach to Introduction of Touch Care for Mothers and Low Birth Weight Infants

[2122]

Yuki IIZUKA

受付 09. 3. 6

お茶の水女子大学人間文化研究科博士後期課程 (臨床心理士)

採用 09. 8.30

別刷請求先: 飯塚有紀 新潟県教育庁上越教育事務所学校支援第2課

〒943-8551 新潟県上越市本城町5番6号

Tel : 025-526-9376 Fax : 025-523-7542

前者について検討する。まずは、質問紙を用いて後述の4つの母親の特性を捉え、タッチケアの施行に及ぼす影響を検討することとした。

Ⅲ. 方 法

(1) 対象者

子どもが都内病院のNICUに入院していた母親であった。ただし、子どもには、低出生体重以外に特別な疾患、障害がないものとし、退院後も酸素吸入などの特別な処置が必要ない者とした。なお、多胎児の母親は、本調査の対象とはしなかった。

退院直前にタッチケアについて説明を行い、実施について承諾し、退院後3か月後の質問紙調査に協力してくれることを了承した22名(50名に依頼した。回収率44%)の母親であった。ただし、タッチケアが継続できない場合には中止をしてもいいことを説明し、その場合でも質問紙には回答のうえ送付してくれるよう要請した。なお、本研究は、当該病院の倫理委員会において許可を受けていた。

(2) 手続き

退院決定後、母親に「赤ちゃんはお母さんにタッチされるのが大好きです。普通に触るだけでもかまわないのですが、今、お勧めしているタッチの方法があるのですが、ご紹介してもかまいませんか?」と導入を図った。心理士は、母親と一緒に子どもに対して実際にタッチケアを実施した。タッチケアの説明を行った後に、質問紙を手渡し、3か月後質問紙を返送して欲しいこと、タッチケアを退院後も可能な限り続けて欲しいこと、ただし、中止したいときにはいつでも中止してかまわないが、その場合でも質問紙には回答し返送して欲しい旨を告げて質問紙を手渡した。

使用した質問紙は以下の4種類である。

・母性意識尺度(大日向, 1988)⁹⁾

母親役割の受容について、積極的で肯定的な意識(MP尺度)と消極的で否定的な意識(MN尺度)の2側面から測定する尺度である。

・対児感情尺度(花沢, 1992)⁹⁾

乳児に対して大人が抱く感情を肯定的側面(接近得点)と否定的側面(回避得点)の2側

面から測定する尺度である。

・STAI日本語版(清水・今井, 1981)¹⁰⁾

不安を状態不安と特性不安とに分け測定する尺度である。前者は一時的、状況的な不安状態を示す。後者は、比較的安定した個人内特性を示す。

・日本版エジンバラ産後うつ病自己評価票(岡野ら, 1996)¹¹⁾

産後の母親の抑うつ状態を定量的に評価することを目的として作成された尺度である。

以上の質問紙の他に次の5項目について自由記述を設けた。自由記述の項目は、①タッチケアに期待したこと、②現在タッチケアを行っているか、継続できなかった場合にはその理由、③タッチケアをやってみて感じた疑問、④タッチケアを行ってみての感想についてであった。その結果をKJ法を用いてグループ化し分析を行った。

表1 サンプルデータ

	性別	出生体重	在胎週数
A	男児	628	23
B	女児	747	25
C	男児	827	24
D	女児	880	27
E	女児	886	29
F	男児	925	27
G	男児	939	28
H	女児	975	28
I	女児	1,029	27
J	女児	1,064	32
K	女児	1,086	32
L	女児	1,095	30
M	男児	1,103	27
N	女児	1,122	28
O	女児	1,137	30
P	男児	1,197	27
Q	男児	1,300	28
R	女児	1,318	30
S	女児	1,348	31
T	女児	1,624	31
U	男児	2,372	35
V	女児	2,631	39

返送された22名(表1)の回答をもとに、タッチケア積極性高群と積極性低群に分けた。タッチケアを積極的に行っていたかどうかについては、タッチケアの頻度、1回あたりの時間、継続期間を得点化し、上位8名を積極性高群、下位8名を積極性低群とした。同様にそれぞれの質問紙で把握した特性については、得点を求め、積極性高群と積極性低群との差についてt検定を行った。

IV. 結 果

結果は、表2のとおりである。有意差があったのは特性不安のみで、5%水準で積極性高群の方が積極性低群よりも高かった(t(14)=-2.70)。それ以外の指標については、積極性高群と低群の間に有意な差は見られなかった。しかし、有意ではないが、全体の指標について眺めると、すべての指標において積極性高群の方が高い得点を示していた。

次に、自由記述における積極性高群と低群の比較を行った(表3)。積極性高群では、情緒

的なことをタッチケアに期待しているのに対し、積極性低群は、生理的なことを期待していることがわかった。

V. 考 察

① タッチケア積極性高群は、低群に比べて特性不安が有意に高かった。このことは意外な結果であった。一般に不安が高ければ、積極性が低くなると考えられるからである。それ以外の指標でも有意ではなかったが、積極性高群の得点が高かった。特に状態不安および産後抑うつは、有意ではないが低群と比べて高い。このことは、積極性高群は、積極性低群に比べてもともと不安になりやすいことに加え、育児中の不安もまた高く、抑うつ傾向が強いといえる。また、母性意識、接近得点は積極性低群より積極性高群の方が有意ではないが、高い。このことは、「タッチケア」は、不安の高い積極性高群が、「タッチケア」を積極的に実施することを通して母親としてのポジティブな面を少しずつ育んでいるのではないかと思われる。自由記述の結果でも、積極性高群では、「タッチケア」に期待することについては、早産に対する自責の念の払拭や、親子のコミュニケーション、信頼関係の形成などといった「関係性」に関するものが目立った。このため、積極性高群では、「タッチケア」は、特性不安が強い母親が、育児中の不安や抑うつを低減させ、一方で、わが子との「関係性」を構築しようとする手段の1つとして用いていたのではないだろうかと考えられる。

② 一方で、積極性低群は、「生理学的効果」を

表2 各指標の平均値と標準偏差

尺度名	積極性低群		積極性高群		
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
母性意識	38.13	4.94	39.5	4.81	n.s
対児感情 (接近得点)	25.25	3.19	27.25	4.27	n.s
対児感情 (回避得点)	9.87	1.96	11.13	1.96	n.s
状態不安	30.13	6.71	37.25	10.26	n.s
特性不安	40.50	6.35	49.00	7.86	p<0.05
エジンバラ 産後抑うつ	3.25	2.92	7.25	6.41	n.s

(注) 本研究では、「母性意識」のMN尺度の項目を逆転項目として算出した。

表3 自由記述の概要

	積極性高群	積極性低群
タッチケアに期待したこと	親子のコミュニケーション、早産に対する自責の念の払拭、信頼関係の形成	便秘の解消、寝付きの良さ、発達の促進
退院後3か月目に実施していたか	やっていない…0名	やっていない…5名
実施できなかった理由		上の子が焼きもちを焼く、子どもが動き回る
タッチケアをやってみた疑問	反応してくれているかどうか、赤ちゃんが嫌がっていないか	どの程度の強さで行ったらよいか、いつやればよいか
やってみた感想	早産の自責の念が母としての愛情に変化、母子ともにリラックスできた	タッチケアでなくても身体を触ると子どもは喜ぶ

タッチケアに期待しており, あまり情緒面について言及することがなかった。また, タッチが特別なことではなく, 家庭生活における接触の中に自然と吸収され, 3 か月時点でタッチケアを行っていない者が多かった。

- ③ このことから, 「タッチケア」の効果について検討する際には, 少なくとも「不安」や「抑うつ」に関する基本データを採取し, その結果を加味して研究計画を策定していく必要があると考えられた。
- ④ 本研究では, 「タッチケア」の積極性に関して特性不安にしか有意な差が見られなかった。タッチケアに, 影響を及ぼす母親の特性を把握する指標として本研究で取り上げたものは不十分であったかもしれない。母親の外向性・内向性といった母親としてというよりは, もととの人格特性などを取り上げることも一案であろう。いずれにしても, 今後, より適切な指標を探索していくことが必要であると考えられる。
- ⑤ 本研究は探索的アプローチとして, タッチケアに影響を及ぼす母親の特性についての仮説を提示できたという意味で意義があったと考える。しかし, 対象者数が少なかったため, 統計的信頼性に疑問が残ることも事実である。今後, 対象者数を増やすことによってより詳細な検討を得ることが課題であると考えられる。

文 献

- 1) Field T, Schanberg S, Scafidi F, et al. Tactile/linesthetic stimulation effects on preterm neonates. *Pediatrics* 1986 ; 77 : 654-658.
- 2) Scafidi F, Field T, Schanberg S, et al. Massage stimulates growth in preterm infants : A replication *Infant Behavior and Development* 1990 ; 13 : 167-188.
- 3) Field Tiffany, Hernandez Reif, maria Sleep problems in infants decrease following massage therapy. *Early-Child-Development-and-Care* 2001 ; 168 : 95-104.
- 4) Wheeden A, Scafidi F, Field T, et al. Massage effects on cocaine exposed preterm neonates. *Development and Behavioral pediatrics*, 1993 ; 14 : 318-322.
- 5) Ottenbacher KJ, Muller L, Brandt D, et al. The effectiveness of tactile stimulation as a form of early intervention : A Quantitative evaluation. *Journal of Development and Behavior Pediatrics* 1987 ; 8 : 68-76.
- 6) Lindrea Kwee Bee, Stainton M, Colleen. A case study of infant massage outcomes. *American Journal of Maternal/Child Nursing* 2000 ; 25 (2) : 95-99.
- 7) 吉永陽一郎, 橋本武夫. ハイリスク児に対するタッチケア. *小児保健研究* 2001 ; 60 (2) : 179-180.
- 8) 大日向雅美. 母性意識の発達変容について. 母性の研究. 東京 ; 川島書店, 1988 : 135-169.
- 9) 花沢成一. 母性心理学. 東京 ; 医学書院, 1992.
- 10) 清水秀美, 今栄国晴. STATE-TRAIT ANXIETY INVENTORY の日本語版 (大学生用) の作成. *教育心理学研究* 1981 ; 29 : 62-67.
- 11) 岡野禎治, 村田真理子, 増地聡子, 他. 日本版エジンバラ産後うつ病調査票 (EPDS) の信頼性と妥当性. *精神科診断学* 1996 ; 7 : 525-533.